

豊かな心と道徳的実践力を育てる教育の推進

－思いやりの心と実践力を育む道徳教育－

I 主題設定の理由

最近、新聞やテレビの報道で、いじめが原因で自殺する子供が相次ぐなど、心が痛む事件が相次いで起きている。児童が安心して元気に学べることが何より重要である。児童一人一人が「協力し助け合う」、「他を思いやる」、「恥ずかしいことはしない」、「命を大切にする」、「善悪をわきまえる」、「我慢する」、「挨拶ができる」などの道徳や社会のルール等を身につけ、強い心やしっかりした自己を確立していくよう、きちんと指導していかなければならない。

今年度は、山梨市（牧丘、三富）、甲州市（勝沼、大和）の9小学校で、担任の視点を通した子供達の現状を把握し、課題を明らかにするために、「思いやりの心とその実践力」についてのアンケート調査をおこなった。その結果をふまえて、学校長として「思いやりの心とその実践力」の育成にどう取り組むべきか考えたり、より良い学校経営力をめざして研究を進めた。

II 研究の概要

1 研究計画

- (1) 平成18年度（1年次）……アンケート調査による実態調査と課題把握
- (2) 平成19年度（2年次）……実践事例研究

2 1年次の研究内容

- (1) アンケート調査……内容の検討、調査実施及び集計、集計結果の分析と検討
調査のまとめと課題

- (2) アンケート調査の結果

①道徳の指導時間の確保について

担任は道徳の指導時間は概ね指導時間は確保されていると答えている。

②思いやりの心とその実践力が足りないと考えること

「他者が発言中でも発言する」「自分の非は認めず常に周囲のせいにする」「自分の思うとおりにならないと腹を立てる」「言葉や行動が乱暴」などが多かった。

③思いやりの心とその実践力を育てるために特に重要だと思うこと

「友だちと協力し助け合う活動」「基本的な生活習慣態度の育成」「仲間作りの活動」「学級活動の充実」「道徳授業の内容の充実」「学校と保護者・地域との連携」「分かる授業を推進し学習意欲と学力の向上」「常に子供を認め励ます」「人権教育の推進」「学級のルールづくり」と続いている。

④担任が思いやりの心とその実践力を育てる効果的な指導事例だったと思うこと

低学年では、「ロールプレイ」、「エンカウンター」などの手法を使って相手の気持

ちになって考える機会をもったりした。中学年から高学年では、「リレー日記」でクラスの問題や気づきを取り上げて協力して課題解決を図ったり、「心の郵便」であたたかい心を周囲の人に届ける実践をおこなったり、「友達の良いところ見つけ」などでお互いに良いところを認めあったりすることが効果があったようである。それから、子ども達を励ましてあげたり、学校でのルールを守ること、道徳などで「心を傷つける言葉や心が優しくなる言葉」について取り上げたりして、いわゆる「役割取得の機会」や「公正な道徳的環境の整備」に担任が努力して頑張っている様子をうかがえた。

⑤思いやりの心とその実践力に関して学校長に望むこと

「確かな人生観に基づく指導助言」「校内の指導体制及び協同体制づくり」「働きやすい職場づくり」「経営者としてのリーダーシップ」「職員との意見交換や対話」「分かりやすい学校教育目標や経営方針の提示」「適切で公平な評価」「必要な予算措置」「校長講話」「地域人材の紹介」などとなった。また、「保護者との対応」「保護者対象の研修会の機会をもつ」「学校内のトラブルについて家庭への指導と教師への助言」「道徳の授業に必要な資料や教材を充実する」こともあげられている。

(3) アンケート調査のまとめと考察

担任が校長に「確かな人生観に基づく指導助言」を求めているように、一番重要なのは学校長の人間性であり、人徳に基づく適切な判断力と実行力であろう。いわゆる長老（徳のある人）型組織マネジメントを求めているのかも知れない。校長は常に自分自身の人間力を向上させる努力を惜しまず、校長自ら思いやりの心とその実践力を体現できるように努力する姿勢が何よりも説得力を持つであろう。

III 研究のまとめと課題

今回は担任という立場を通して、「思いやりの心とその実践力」に関する調査であり、大まかな実態と傾向をつかむものであった。道徳教育では校長が出来ることについて考えてみると、直接的に児童を指導する機会は少なく、道徳教育の多くの部分は担任の指導力にかかっている。道徳の授業が道徳的な認知葛藤の経験（モラルジレンマ）だけで道徳授業や指導がオープンエンドで終わってはいないか、自己決定を尊重するあまり、望ましくない道徳性の基準を自分で作り上げることにならないように注意したい。自己の考えと矛盾する他者の考えを統合して解決を図る、役割取得の機会があり、公正な道徳的環境の整備も成されているか把握しておくことも大切である。

また、「思いやりの心」は家庭や親の養育態度や考えが大きく影響するので、保護者への啓蒙活動、学校便り等をはじめとして、保護者及び家庭との共通理解と連携をしっかり築くことも重要である。今後は、各校の良い実践例を取り上げて比較検討し、お互いに学び合い、学校経営力を高めていきたい。

文責 牧丘第三小学校

校長 小野 徹